

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 3 日現在

機関番号：34416

研究種目：挑戦的研究（萌芽）

研究期間：2019～2023

課題番号：19K21653

研究課題名（和文）イブン・スィーナ著『医学典範』研究：東西本草学比較に向けて

研究課題名（英文）Study of Ibn Sina's Qanon of Medicine: As a basis for comparison of Eastern and Western Herbalism

研究代表者

橋爪 烈（HASHIZUME, RETSU）

関西大学・文学部・准教授

研究者番号：10613862

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 5,000,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、イブン・スィーナ著『医学典範』第2巻本草学書に収録された植物等の性質、薬としての効能等の情報に注目し、これらの情報が彼の前後の時代の本草学書の内容とどの程度一致するか、過去の本草学書の内容をどの程度反映させ、またどのような新規情報が加わっているかを調査をすべく、アラビア語本草書の写本を可能な限り収集し、比較検討した。アリフの項目での比較により、『医学典範』は本草学書の主流の項目配列ではないこと、収録数も最大数を誇るイブン・バイタルの本草書と比べても3分の1程度であるが、医学書である『医学典範』自体の有する価値によって、後世の本草書への影響力も一定程度存在することが分かった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

イブン・スィーナ著『医学典範』は従来第1巻の内容が注目されてきた。これは当時の医学研究の清華を示し、彼の哲学議論を理解するための手がかりとなることが要因である。しかし、本研究で注目した同書第2巻も、収録項目が後世の本草学書と比べて少なくはあるが、ギリシア由来の本草学の成果を凝集し、また薬剤の効能を、同じくギリシア由来の四元素説を土台として説明している点で、当時の医学体系の頂点を示す内容を有していることが見えてきた。この成果を基に、『医学典範』と同時代ないし前後の時代の本草学の伝統とその学問的発展、そしてイスラム世界を超えてその成果がどのように広まったかを比較検討することが可能となるだろう。

研究成果の概要（英文）：In this study, I focused on the information on the properties of plants, etc., and their efficacy as medicines contained in the herbalism book of the second volume of "Qanon of Medicine" written by Ibn Sina, and collected and compared the manuscripts of the Arabic herbalism book as much as possible in order to investigate to what extent these information agreed with the contents of the herbalism book of the period before and after him, to what extent they reflected the contents of the herbalism book in the past, and what new information was added. By comparing the items of "Alif", it was found that "Qanon of Medicine" was not a mainstream item arrangement of herbalism books, and that the number of records was about 1/3 of that of Ibn Baytar's herbalism book, which boasted the largest number of records, but the value of "Medical Law" itself, which is a medical book, showed that it had some influence on herbalism books in later generations.

研究分野：アラビア語写本研究

キーワード：イブン・スィーナ 『医学典範』 本草学 アラビア語写本

## 様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

本研究「イブン・スィーナー著『医学典範』研究：東西本草学比較に向けて」は、イスラーム医学史における金字塔作品を著した医学者にして哲学者イブン・スィーナー Abū ‘Alī al-Ḥusayn b. ‘Abd Allāh al-Shaykh al-Raʿīs (ヒジュラ暦 428 年 / 西暦 1037 年歿) の大著『医学典範 *Kitāb al-Qānūn fī al-Ṭibb*』の写本研究を行い、特に全 5 巻ある『医学典範』の内の第 2 巻、すなわち薬品の材料になりうる植物、動物、鉱物の名称、性質、効能などを詳細に記した、いわゆる「本草学書」に収録された内容に注目し、その記述内容を『医学典範』の前後の時代の「本草学書」の内容と比較することで、イスラーム医学史上、ひいては医学史一般における『医学典範』の意義を明らかにするとともに、『医学典範』第 2 巻の内容を、特に中国医学や漢方医学において示される薬品の材料と比べるための、比較の土台を構築することを目指した。

研究開始は 2019 年度後半からであったが、その後 2020 年 2 月以降新型コロナウイルスの世界的な蔓延状況に直面したため、海外での写本調査が不可能となり、2021 年度で終了予定の研究計画が全く進まず、22 年、23 年と 2 度の延長申請を行った。しかし、それでも海外での写本調査の状況はあまり改善せず、最終的には 2023 年度夏に写本調査と、現地の植生調査に赴くことができたが、調査時間、量ともに非常に限られたものとなった。このため、以下の報告は十分な写本調査ができなかった状況での成果報告となる。

### 2. 研究の目的

本研究は、『医学典範』のテキスト自体に対する研究を行うことに目標を置く。

12 世紀にクレモナのゲラルドによってラテン語訳されて以降、『医学典範』がヨーロッパの医学教育に与えた影響は多大であったと言われている。1522 年リヨンでラテン語テキスト版が刊行され、その後 1593 年にローマでアラビア語版テキストが刊行されている。この 1593 年版はその後の『医学典範』テキストの校訂作業に使用されることになるため、重要なテキストであるが、問題点としてはこのテキストの基となった写本が確定されていないということが挙げられる。その後、19 世紀末から現在に至るまで数種（ローマ版含め 8 種類）の『医学典範』校訂テキストが刊行されているが、現存する『医学典範』写本を網羅し、それらの写本の関係を検討したうえで校訂作業は為されておらず、『医学典範』はいまだに真に信頼できるテキストを有さない状況である。

医学研究の発展に大きく貢献したと思われる『医学典範』の決定版テキストがまだ存在しない、あるいは影響力を持ったテキストに使用された写本が同定されていないという状況は、医学史研究において大きな欠落を招いているといえよう。そうした欠を埋めるべく、本研究は『医学典範』写本の全概要の把握と特に第 2 巻「本草学書」の内容を、他の同時代や前後の時代の本草学書の内容と比較し、『医学典範』テキストの独自性や従来の知的伝統をどのように継承しているか把握することを目的とした。

### 3. 研究の方法

(1) まず『医学典範』写本の現存状況の確認から行った。昨今はネット上で、各図書館所蔵の写本の画像を閲覧できる状況も増えてきたため、研究状況は飛躍的に向上している。ただ、やはり現地図書館を訪れ、写本そのものやその画像コピーを閲覧し、写本の葉を 1 枚 1 枚捲る作業をしない限り、その写本が果たして真に『医学典範』であるか、また徹頭徹尾その写本であるか、各種史料の合冊であるか、確かめることは難しい。上記の通り、新型コロナウイルスの蔓延が影響して実地での調査がほぼできなかったため、この報告では、ひとまず Gutas(2014)に示された『医学典範』写本の現存リストに従い、166 の『医学典範』写本が存在するという情報を出発点とし、これに各種図書館のカタログや実際の調査結果に基づく加除を行うこととした。報告者はスレイマニエ図書館で 2020 年春と 2023 年夏に写本調査を実施した。これにパリの国立公文書館(ネットで所蔵写本の一部画像を公開している)所蔵写本の調査を行い、またオックスフォード大学ボードリアン図書館で過去に行った調査の一部を利用して、情報の追加を行うこととした。

(2) 次に、『医学典範』全体の構成に関して、諸写本間の異同の確認、また収録項目などの異同についても確認作業を行うこととした。この作業は『医学典範』のみにとどまらず、『医学典範』の前後の時代や同時代の「本草学書」の構成や収録項目についても比較することとした。これによって『医学典範』がイスラーム世界における「本草学書」の伝統にどのように位置付けられるのか、ある程度の見通しが得られると考えたためである。この比較作業のために、『医学典範』写本同様、世界各国に所蔵される「本草学書」の写本の閲覧収集、また校訂テキストとなっている作品の収集も並行して行うこととした。

#### 4. 研究成果

(1) Gutas (2014) のリストには、報告者(橋爪)が、イスタンブールのスレイマニエ図書館で確認できていなかった4写本が示されていたが、一方、Gutas のリストには収録されていなかった9つの『医学典範』写本を報告者は追加することができた。また最新の『医学典範』校訂テキストが2018年、2022年にイランで刊行されているが(*Al-Qānūn fī al-Ṭibb*, 2 vols., ed. Najafgholi Habibi, Hamadān, International Avicenna Scientific & Cultural Foundation, 2018, 2021) その校訂テキストに使用されている、イランの図書館に所蔵される3写本が、Gutas のリストには未収録であることが分かった。報告者未見の4写本については、スレイマニエ図書館の写本データベースでは検索できないので、その存在についてさらなる調査が必要であるが、Gutas が未見の12写本を加えることができるので、これで『医学典範』写本は178写本になるという結果が得られた。このほか、Janssens (1991)、Janssens (2017) の参考書籍を用い、『医学典範』の写本研究やテキスト研究を行っている研究文献の探索を行ったが、『医学典範』写本を網羅的に扱ったものは現段階では見いだせなかった。

次に、現存する『医学典範』写本が、全5巻の内、どの巻を収録する写本であるか、について調査した。これこそ、写本リストやカタログの情報だけでは足りず、実地検分が必要な作業である。上記の通り、新型コロナの蔓延により、この作業が完全に滞ったため、ここに提示できる情報は一部(スレイマニエ図書館所蔵写本)のみとなる。

スレイマニエ図書館所蔵の『医学典範』写本は全部で57写本ある。その内、全巻揃いが16写本(28%)、第1巻が17写本(29.8%)、第2巻が5写本(8.7%)、第3巻が8写本(14%)、第4巻が7写本(12.2%)、第5巻が4写本(7%)という冊数と割合になった。これが現存する『医学典範』写本の傾向を示しているかは不明であるが、特に第1巻の需要があったことがうかがえる。これは第1巻が医学の総論を扱い、ヨーロッパ世界においても特にこの第1巻が医学教育に用いられ学ばれたということと考え併せて、妥当な結果であると言えるだろう。一方で、本草学書となる第2巻や複合薬のレシピを多数収録する第5巻の現存状況が少ないことから、『医学典範』の第2、第5巻がそれほど重要視されるものではなかった可能性が指摘できる。

(2) 『医学典範』全体の構成や収録項目についての確認作業は、写本データの収集が半ばであることと全5巻という大部の構成であるため、ごくわずかな特徴を捉えるにとどまった。本研究では、『医学典範』第2巻「本草学書」のうち、収録項目数が最も多いAlifの項目を選び、過去の「本草学書」、例えばディオスコリデスの『薬物誌』やピールルーニーの『薬物の書』、ガーフィキー『単純薬の書』、イブヌルバイタルの『薬事集成』、あるいは『医学典範』の注釈書や抜粋書などに収録されたAlifの項目の薬物リストとの比較を行った。この結果、『医学典範』の収録項目やその配列順序はディオスコリデス以来の「本草学書」の伝統からは若干外れていること、ディオスコリデス由来の伝統は、むしろイブヌルバイタルが継承発展させていることを、現段階までに確認した。ただし、イブヌルバイタルやガーフィキーなど『医学典範』以後に「本草学書」を著した学者たちは、『医学典範』の成果を無視したわけではなく、重要な典拠の一つとして取り入れていることも指摘しておく。

『医学典範』と他の「本草学書」との間には収録項目の数や配列順序に見られるものよりももっと重要な違いが存在することが判明した。それは、各項目内の情報の体系化がなされているか否かである。『医学典範』第2巻に特徴的な記述は、薬材の名称、最良薬品の精選、薬材の気質、主治、その他体の各部位においてどのような症状に効果があるかなど、17の観点に区別して記述していることにある。これは他の「本草学書」には見られない記述であり、これこそ『医学典範』が体系的な医学書として評価される要因の一端といえる。この点は、従来の研究においては指摘されていないことであり、本研究の成果の一部と言えるだろう。

上記(1)の成果は、2023年10月に大阪大学にて開催されたオリエント学会において報告し、現在その成果をまとめる作業を行っている。また(2)については、2024年3月に本研究の成果報告として行った会合において提示するとともに、2024年6月に富山大学で開催される西洋中世学会のシンポジウムにおいて得られた成果を公表する予定である。

#### 参考文献：イブン・スィーナー諸作品および『医学典範』写本に関する研究

- Janssens, Jules L. 1991, *An Annotated Bibliography of Ibn Sīnā (1970-1989): Including Arabic and Persian Publications and Turkish and Russian References*, Leuven U.P.
- Gutas, Dimitri 2014, *Avicenna and the Aristotelian Tradition: Introduction to Reading Avicenna's Philosophical Works, Second, Revised and Enlarged Edition, Including an Inventory of Avicenna's Authentic Works*, Leiden, Brill.
- Janssens, Jules L. 2017, *An Annotated Bibliography of Ibn Sīnā: Second Supplement (1995-2009)*, Arizona, Arizona center for Medieval and Renaissance Studies.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 Retsu HASHIZUME	4. 巻 29-2
2. 論文標題 Recruitment of Intellectuals in an Early Islamic Society: Mainly in the Buwayhid period	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Historia Scientiarum: International Journal of the History of Science Society of Japan	6. 最初と最後の頁 198-213
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 橋爪烈
2. 発表標題 アラビア語医薬文献・本草学文献研究の可能性について
3. 学会等名 早稲田大学総合人文科学研究センター研究報告会「中世アラブ・イスラーム史研究の最前線」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 橋爪烈
2. 発表標題 西欧医学の礎としてのイスラーム医学
3. 学会等名 第16回西洋中世学会シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2024年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 マンフレッド・ウルマン、橋爪烈、中島愛里奈	4. 発行年 2022年
2. 出版社 青土社	5. 総ページ数 306
3. 書名 イスラーム医学	

〔産業財産権〕

〔その他〕

『医学典範』写本リスト(スレイマニエ図書館所蔵分)  
[https://researchmap.jp/multidatabases/multidatabase\\_contents/detail/236228/5591428c65daab8c563a81b25ccc90c5?frame\\_id=822554](https://researchmap.jp/multidatabases/multidatabase_contents/detail/236228/5591428c65daab8c563a81b25ccc90c5?frame_id=822554)  
『医学典範』写本リスト  
[https://researchmap.jp/multidatabases/multidatabase\\_contents/detail/236228/5591428c65daab8c563a81b25ccc90c5?frame\\_id=822554](https://researchmap.jp/multidatabases/multidatabase_contents/detail/236228/5591428c65daab8c563a81b25ccc90c5?frame_id=822554)

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------